

# バーゼルⅡ・定量的影響度調査(QIS5)

＜05年9月末時点＞

## 結果概要

金融庁

日本銀行

2006年6月

# 定量的影響度調査(QIS5)

[経緯・概要]

## 定量的影響度調査(QIS5)の経緯・概要①

### バーゼル銀行監督委員会における作業の経緯

[2003年4月] バーゼルⅡ・第3次市中協議案(CP3)公表

[2003年10月] 内部格付手法に関する一部修正→市中協議

[2004年6月] バーゼルⅡ・枠組文書公表

⇒ 信用リスクアセットに対するスケールリングファクター1.06(暫定値)設定

[2005年3月] 定量的影響度調査に関するニューズレター公表

⇒ 国際的な「定量的影響度調査(QIS5)」を05年秋に実施し、本調査に基づき、バーゼルⅡにおける最低所要自己資本の水準調整を検討する旨公表

[2005年10月] 「定量的影響度調査(QIS5)」開始

⇒ 本邦においては05年9月末データに基づき実施

[2006年5月] プレスリリース「バーゼルⅡの枠組みの水準調整を維持」の公表

⇒ 信用リスクアセットに対するスケールリングファクター1.06の維持を決定

[2006年6月] 「定量的影響度調査(QIS5)の結果(Results of the fifth quantitative impact study)」公表

## 定量的影響度調査(QIS5)の経緯・概要②

### 世界各国および本邦の参加状況

- 世界各国の参加状況

- ⇒ 今回のバーゼル委による定量的影響度調査(QIS5)には、日本を含む32ヶ国(米国の「QIS4」ベースでの参加を含む)が参加。
- ⇒ バーゼル委メンバー(G10諸国)からは、Group1銀行\*82行(米国含む)、Group2銀行146行が参加。非G10諸国も合わせると、合計382行が参加。

- 本邦の参加状況

- ⇒ 本邦においては、バーゼルⅡ実施当初、あるいは実施後数年以内に、信用リスク計測における「内部格付手法」の採用を希望する銀行を対象に本調査を実施(提出データは、05年9月末時点を基準)。
- ⇒ 今回の調査に参加した邦銀は全部で37行\*\*、うちGroup1銀行は7行(その他の銀行はGroup2銀行として区分)。

\* 「Group1銀行」とは、バーゼル委にて用いられる区分で、国際的に活動する銀行であって、基本的項目(Tier1自己資本)の額が30億ユーロ(約4,200億円相当)以上の銀行を指す。また、「Group2銀行」は、Group1銀行に含まれない銀行を指す。

\*\* 金融機関によって、同一グループ内の複数の銀行が個別に参加した場合と持株会社連結ベースにて参加した場合の双方が含まれる。

## 定量的影響度調査(QIS5)の経緯・概要③

### 所要自己資本の水準調整

- 現行規制とバーゼルⅡのそれぞれにおいて最低限維持すべき自己資本の水準(最低所要自己資本額)の比較
  - ⇒ バーゼルⅡに基づく最低所要自己資本の全体的な水準を、ほぼ現行規制どおりとするとともに、より高度な手法を採用するインセンティブを与えることが目標(「枠組文書」パラグラフ14)。
  - ⇒ 現行規制の水準との比較については、バーゼルⅡの「最低所要自己資本額(MRC (Minimum Required Capitalの略))」\*を計算し、対現行規制比での増減率を算出。当該算出結果に基づき、バーゼルⅡにおける自己資本の水準調整について検討。
    - ☞ MRCは、バーゼルⅡ(内部格付手法)の場合、「 $(8\% \times \text{リスクアセット(バーゼルⅡ)}) - \text{引当余剰}^{**} (+ \text{引当不足}) + \text{控除項目}$ 」、現行規制の場合、「 $(8\% \times \text{リスクアセット(現行)}) + \text{控除項目} - (\text{一般貸引のTier 2算入分})$ 」にて計算\*\*\*。
- バーゼル委が現在の水準調整を維持する旨公表(06年5月24日)
  - ⇒ QIS5の結果に基づき、信用リスクアセットに対する1.06のスケールリングファクターを維持する旨決定。

\* 「最低所要自己資本額」(MRC)とは、国際統一基準に基づく最低自己資本比率(8%)を満たすために必要な自己資本金額であり、増減率は、現行規制と新規制にて計算されたMRCを比較するもの。例えば、現行規制のMRCが「100」で、バーゼルⅡのMRCが「99」の場合、対現行規制比での増減率は、「1%減」となる。一般的には、MRCが減少する場合、自己資本比率は上昇する関係にあるが、現在の自己資本比率が8%を相当程度上回る内部格付手法採用行については、MRCが若干増加しても自己資本比率は上昇する可能性がある。

\*\* 「引当余剰」とは、バーゼルⅡ上の期待損失額(EL)と貸倒引当金との差額を計算し、貸倒引当金が期待損失額を上回る状態をいう。また、「引当不足」とは貸倒引当金が期待損失額を下回る状態をいう。

\*\*\* 最低所要自己資本額の計算に関する詳細については、バーゼル委公表の「定量的影響度調査(QIS5)の結果(Results of the fifth quantitative impact study)」Annex A参照。

# 定量的影響度調査(QIS5)

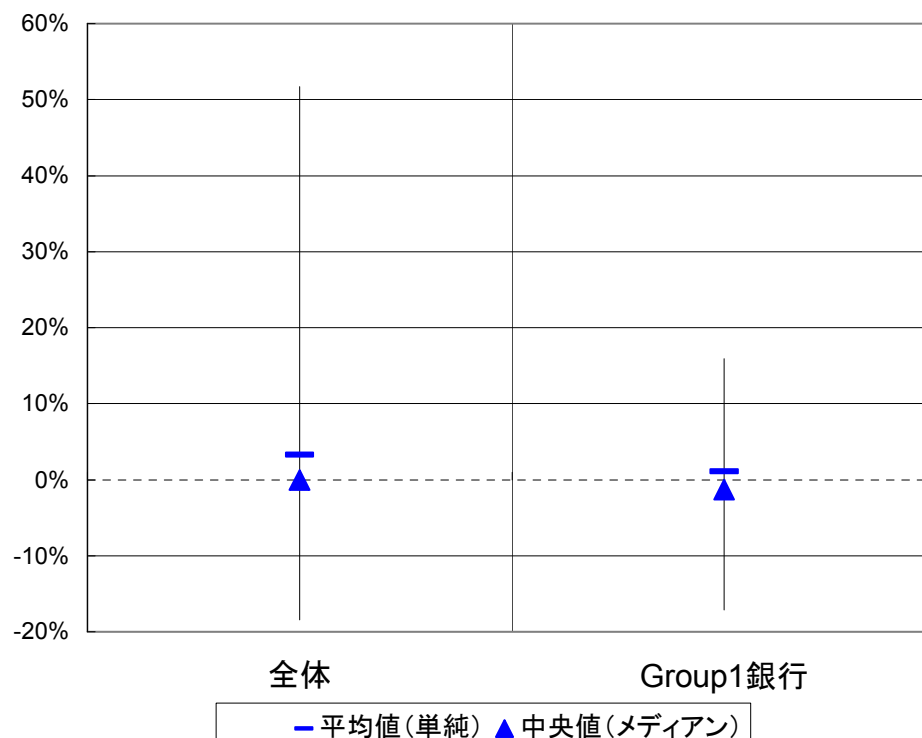
[邦銀の結果]

## 定量的影響度調査(QIS5)・邦銀の結果①

### 最低所要自己資本額(MRC)の増減率

- 基礎的内部格付手法(FIRB)\*について、最低所要自己資本増減率(MRC増減率／対現行規制比)ベースで、Group1銀行では+1%(単純平均)\*\*、邦銀全体では+3%(単純平均)\*\*\*となり、総じて現行規制と同水準。

【QIS5】基礎的内部格付手法・最低所要自己資本(MRC)増減率  
(スケーリングファクター=1.06適用後)[全体・Group1銀行]



\* FIRBは参加37行全てがデータを提出。うちデータ入力の不備等の見られた4行については集計対象から外して計算。

\*\* Group1銀行におけるFIRBのMRC増減率(加重平均)は+3%、自己資本比率は単純平均で11.7%から12.2%へ0.5%ポイントの上昇。

\*\*\* 邦銀全体における標準的手法のMRC増減率(単純平均)は+1%。(標準的手法については参加37行のうち34行がデータを提出。うちデータ入力の不備等の見られた5行については集計対象から外して計算)

## 定量的影響度調査(QIS5)・邦銀の結果②

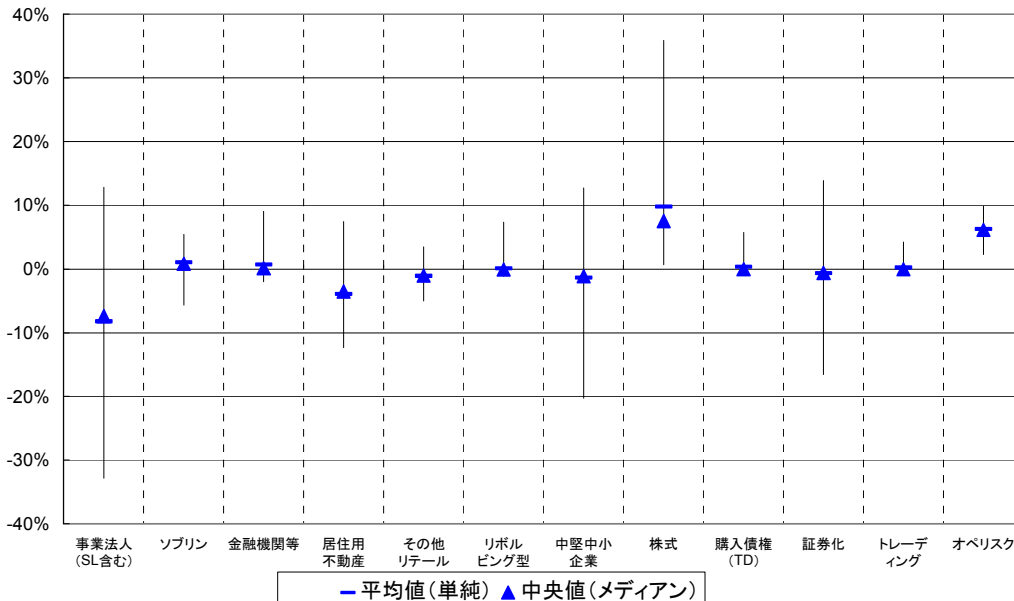
### MRC増減率におけるポートフォリオ別の寄与度\*(増減要素の認識)

- FIRBに基づく全体の所要自己資本(MRC)増減率(対現行規制比)の内訳をポートフォリオ別に分解して「寄与度」を算出。
- 事業法人向けエクスポージャーにおいて、所要自己資本の低下(全体:平均約-9%)が見られる一方、株式等エクスポージャーでは所要自己資本が増加(全体:平均約+10%)。

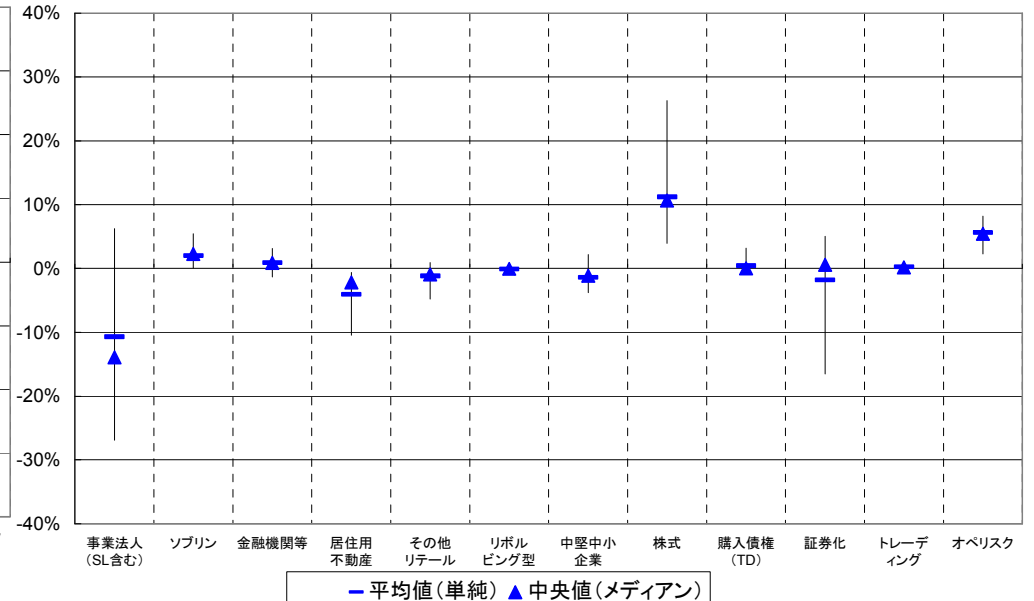
全体

Group1銀行

【QIS5】基礎的内部格付手法・ポートフォリオ別全体MRC増減率に対する寄与度  
(スケールリングファクター=1.06適用後)[全体]



【QIS5】基礎的内部格付手法・ポートフォリオ別全体MRC増減率に対する寄与度  
(スケールリングファクター=1.06適用後)[Group1銀行]



\* 寄与度(contribution)の具体的な計算方法については、バーゼル委による「定量的影響度調査(QIS5)の結果(Results of the fifth quantitative impact study)」Annex A参照。



## 定量的影響度調査(QIS5)・邦銀の結果③

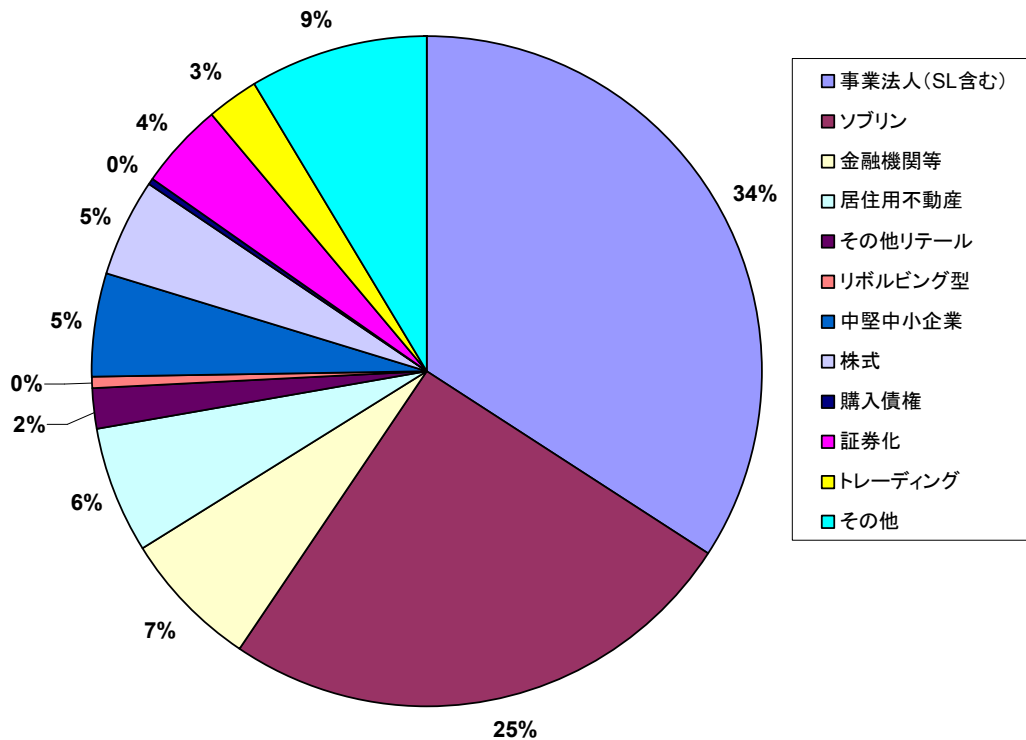
### エクスポージャー構成比率

#### [グループ別]

- 事業法人等向けエクスポージャー(事業法人(SL(特定貸付債権)を含む)＋金融機関等＋ソブリン)の比率は、Group1銀行の場合、全体の約3分の2を占める一方、Group2銀行は、全体の約2分の1強程度。
- リテール向けエクスポージャー(居住用不動産＋リボルビング型＋その他リテール)の比率は、Group1銀行が約8%程度であるのに対し、Group2銀行の場合、全体の約20%程度。

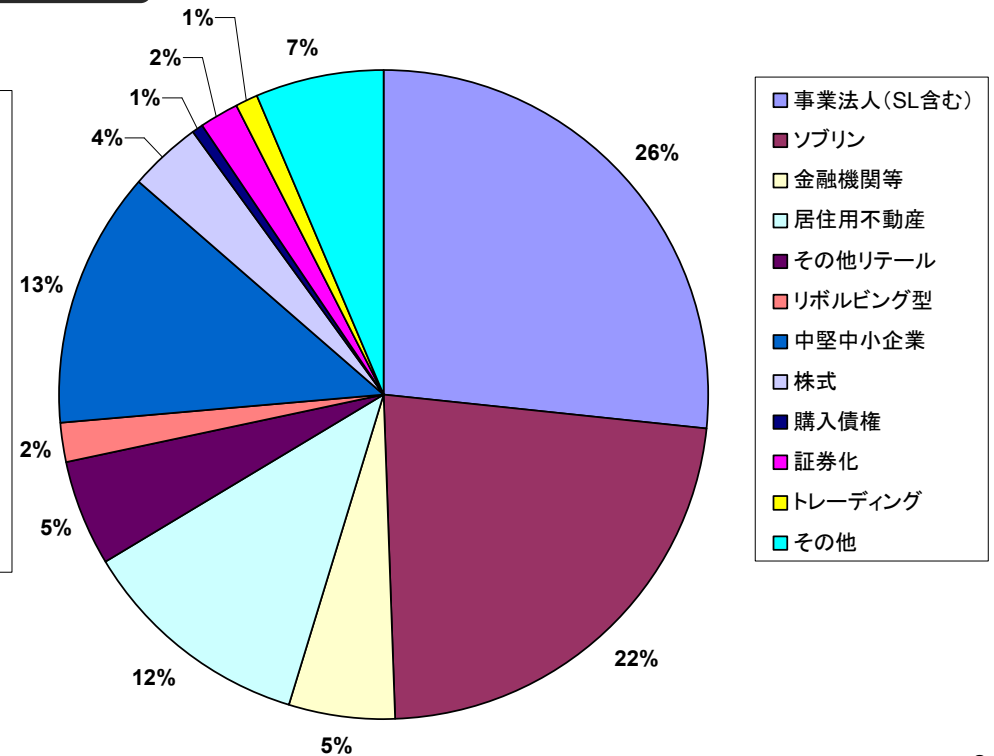
Group1銀行

【QIS5】エクスポージャー比率(Group1銀行)



Group2銀行

【QIS5】エクスポージャー比率(Group2銀行)



## 定量的影響度調査(QIS5)・邦銀の結果④

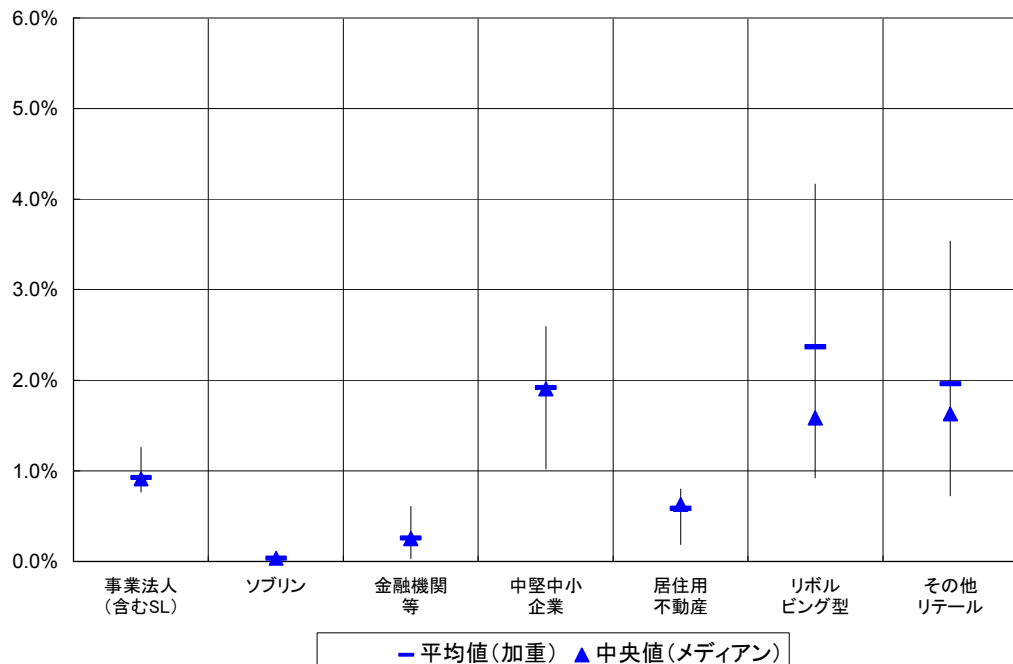
### エクスポージャー加重平均デフォルト確率(PD)〈非デフォルト債権〉

#### [グループ別]

- 各資産区分におけるPD値の平均値(加重)は、Group1、Group2ともに概ね同様の傾向を示しているものの、特に、中堅中小企業、リボルビング型、その他リテールにおいて比較的大きなばらつきが見られる。

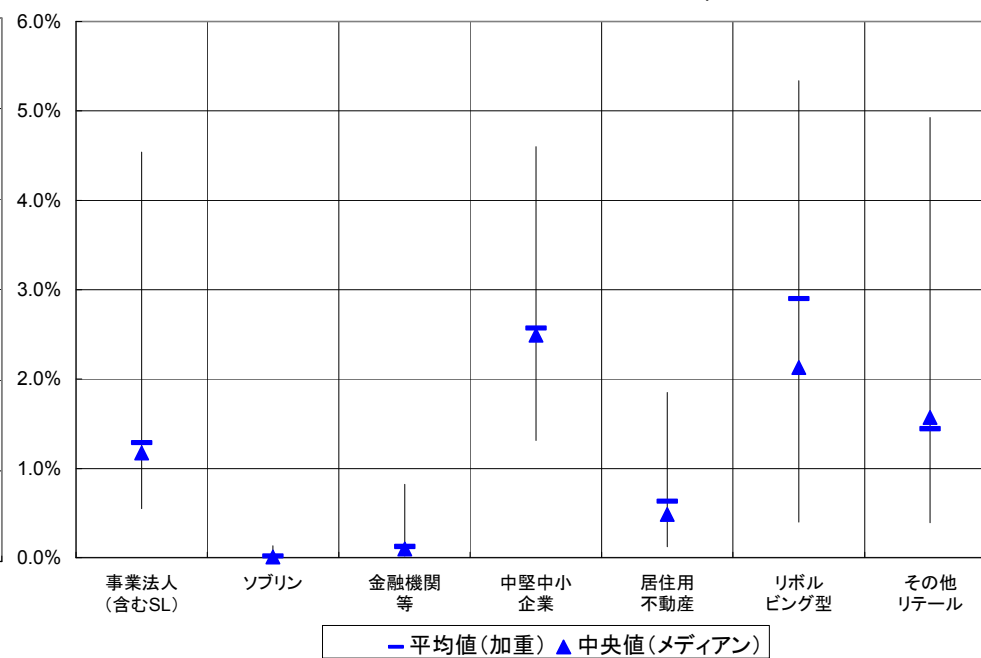
#### Group1銀行

【QIS5】資産区分別エクスポージャー加重平均デフォルト確率(PD) (非デフォルト債権) [Group1銀行]



#### Group2銀行

【QIS5】資産区分別エクスポージャー加重平均デフォルト確率(PD) (非デフォルト債権) [Group2銀行]



## 定量的影響度調査(QIS5)・邦銀の結果⑤

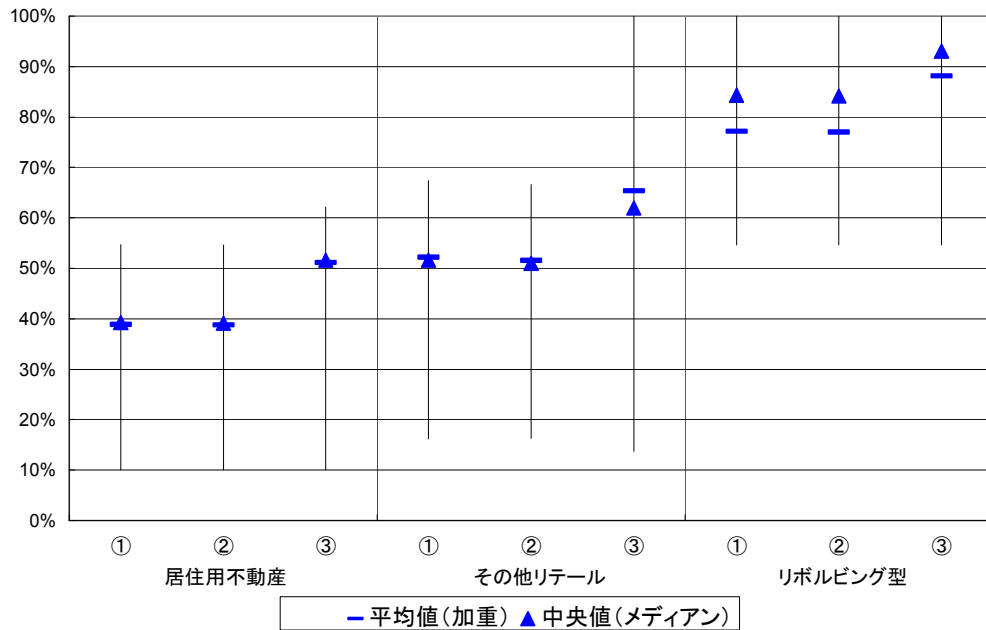
### エクスポージャー加重平均デフォルト時損失率(LGD)

[グループ別]

- リテール向けエクスポージャーの加重平均LGD値は、PD値と比較してばらつきが大きい。(デフォルトに関する実績データの不足による保守的な調整として100%を適用している場合も見られる。)

#### Group1銀行

【QIS5】資産区分別[リテール]・エクスポージャー 加重平均  
デフォルト時損失率(LGD)[Group1銀行]  
平均値:(左から)①全体平均、②非デフォルト債権平均、③デフォルト債権平均



#### Group2銀行

【QIS5】資産区分別[リテール]・エクスポージャー 加重平均  
デフォルト時損失率(LGD)[Group2銀行]  
平均値:(左から)①全体平均、②非デフォルト債権平均、③デフォルト債権平均

